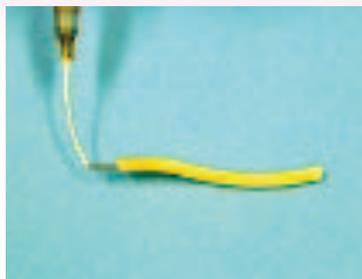


エラスチン材料の例



神経再生誘導管として開発したエラスチンチューブ



膀胱壁再生用膜として開発したエラスチンシート

ね、ようやく原料の品質を安定させることに成功しました。エラスチンは、衛生と安全が徹底管理された県内の豚だけから抽出されています。商品の構想から1年半後、エラスチンドリンクと美容液が完成しました。

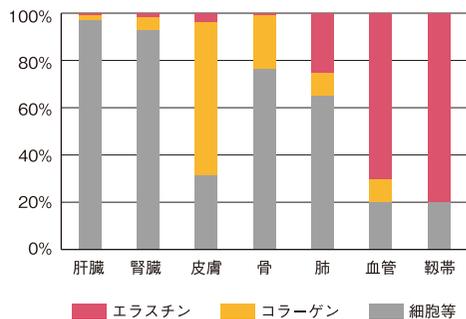
最近では大手化粧品メーカーがエラスチン入りの商品販売しているものの、その含有量はだいたい数mg。一方、エラスチンドリンクには200mg、美容液には1000mgもの生エラスチンが入っています。生エラスチンとは、生体内では不溶性であるエラスチンをできるだけ壊さずに水溶性化する技術で作られた高分子量エラスチンのことです。宮本准教授は、機能別に生エラスチン（アイソタイプ型エラスチン）を精製する技術を開発し、シート、チューブ状といったエラスチン材料の成形から、数種類の水溶性エラスチン

の生成までを行っています。この技術にもとづいて、リリーウォーカーと生エラスチンを開発しました。商品発売後すぐに反響があり、使用した人から「肌が突っ張る感じではなく、ピンと張る」「化粧のりがいい」といった感想が寄せられました。まずは、手軽な美容ドリンクからエラスチンを普及させること。そして将来、医療分野で役立つエラスチン材料開発が宮本准教授の目標です。

商品お問い合わせ：
株式会社リリーウォーカー
〒514-0013
三重県津市海岸町17番8号
TEL:0120-372-901

位の代替となる人工臓器の研究まで進めることを目指しています。
また、もう少し身近な利用として、基礎化粧品の研究を行っています。コラーゲンは鋼のように強く、エラスチンはゴムのように柔軟な性質を持っていて、どちらが欠けてもハリのある肌は生まれません。
このエラスチンの持つ力を通じて、医療材料、コスメなど様々な方面から皆さんをサポートしていきます。
(Yui第3号 2009年6月発行 より)

宮本准教授は自身が開発した豚由来のエラスチン原料を用いた商品開発をしていく化粧品メーカーを探していましたが、双方の条件が合わず、契約にまで至らないケースばかりでした。昨年夏、ようやく研究をかたちにしてくれる会社が見つかりました。津市に本社と工場を構える株式会社リリーウォーカーの大嶋取締役は、県内の食肉関係企業での勤務経験から食肉の取り扱いについて知識があり、豚のエラスチン



2012年1月、美容飲料「エラスチンドリンク」と美容液「エレン・ドウ・リス」が発売

三重大学大学院工学研究科
宮本 啓一
准教授



美容飲料「エラスチンドリンク」

ELASTIN

今年1月、三重大学大学院工学研究科の宮本啓一准教授と津市の株式会社リリーウォーカーが共同で美容飲料「エラスチンドリンク」と美容液「エレン・ドウ・リス」を開発しました。リリーウォーカー社が製造販売し、宮本准教授はその技術提供を行っています。

宮本准教授は、肌や血管の組織の伸縮性と弾力に大きな役割を果たす「エラスチン」というたんぱく質を医療や美容の分野で利用する研究を進めてきました。エラスチンとコラーゲン、どちらも細胞を取り囲む細胞外基質と呼ばれるたんぱく質の一種で、血管、骨、皮膚、靭帯などを形成する大事な材料です。コラーゲンが「肌のハリを保つもの」として人気がある一方、エラスチンの知名度は今ひとつ。コラーゲンに比べてエラスチンは成形が容易でないこともあり、材料としての研究がほとんどされてこなかったのです。

2005年、「有限会社細胞外基質研究所」を設立し、再生医療や細胞培養の材料や化粧品など幅広い分野でのエラスチン利用を研究しています。独自の成形技術を用いて、研究用試薬や細胞培養用のキットの販売等を中心に行っています。取引先は製薬メーカー、医療メーカー、国の研究所、他大学等で、それぞれの用途や目的に応じた試作品を提供しています。エラスチンの伸びる特徴を生かし、引っ張ったりひねったり、シート型、チューブ型など、ニーズに合わせた形状を作るのがこの技術の強みです。将来的には、臓器移植のための医療材料や、事故や病気で損傷した部

研究成果の商品化
スキンケアから
医療分野まで、届けたい
エラスチンの力

美容液「エレン・ドウ・リス」

